

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営に関する要綱の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会 議 名	令和7年度第2回高松市社会教育委員会議
開催日時	令和8年2月17日(火) 午後2時～3時50分
開催場所	高松市役所3階 33会議室
議 題	(1) 審議事項 ア 地域学校協働活動の推進について イ 香川大学防犯パトロール隊による「防犯アプリ活用教室」について ウ 本市の不登校の課題について (2) その他
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	大村委員、岡委員、笠井委員、松下委員、有澤委員、藤本委員、山神委員、森岡委員、渡部委員 (欠席委員0名)
傍聴者	0名(定員5名)
報道記者	0名
担当課及び連絡先	生涯学習課      839-2633

### 会議の経過及び結果

#### (1) 審議事項

##### ア 地域学校協働活動の推進について

事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

##### (委員)

先進事例だけでなく、地域学校協働活動の体制が整備できていない地域での活動にも事例として取り上げられるものがあると思う。まずは、県内他市町の実践状況について、調査してみてもどうか。

##### (事務局)

他市の事例については、研修会で、県外の先進事例に携わった講師の方から、お話をお聞きすることも多いが、うまくいっている事例がほとんどとなっている。本市と近い状況・立場にある県内の他市町の事例についても今後情報収集していきたい。

##### (委員)

令和5年度から既に学校運営協議会を設置していると思うが、令和9年度からの本格実施で違う点としては、コーディネーターを委嘱するかどうかという部分なのか。

また、資料6ページのグラフについて、「今後の相当の支援を要すると考えられる学校も存在する」とあるが、どのような状況でどういった支援が必要なのか。

##### (事務局)

学校運営協議会がしっかり機能した上で、地域学校協働活動に繋がるとの考えから、学校運営協議会を先行して設置している。地域学校協働活動については、学校によって状況も様々なため、モデル事業からスタートし、徐々に取組を進めているところ。コーディネーターについても、内容によって複数人で分担しているケースもあるため、一律に1人を委嘱する形がどうかという点についても検討していきたい。

資料6ページのグラフについては、学校が控えめな回答をしていることによって、十分な活動ができていないと表れている部分もある一方で、地域と学校の関係があまりうまくいって

## 会議の経過及び結果

ないという悩みを抱えているところもある。そういったところについては、学校だけでなく地域の方にも足を運び、うまく活動できるよう支援していきたいと考えている。

(委員)

教育現場での経験が無い方の中にも、子どものために何かしたいという気持ちを持った方は、たくさんいるので、そういった地域の方も関わられるような機会を作り、コーディネーター1人への個人依存にならないようにしてもらいたい。

また、資料5ページの活動事例について、ホームページに掲載しているとのことだが、もう少し子どもの声が見えるような形で、色々な人が興味を持ってくれるような工夫があればいいと思う。

(事務局)

これまでは、地域が学校に対して支援するという形が多かったが、最近は、大人と子どもと一緒に参加し、地域全体で防災訓練を開催したり、子どもたちにも参加してもらうことで地域の文化祭が活性化したりなど、学校と地域が互いに Win-Win な関係になれるような活動を行っている地域も見られるようになってきている。こういった事例を広げていきたい。

(委員)

資料4ページの研修会について、段々と参加人数が減少しているが、こういった方に案内し、こういった方が参加しているのか。

また、資料1ページの図について、消費者庁が行っている消費者安全確保地域協議会(見守りネットワーク)など、同じような形で行っている取組もあるが、そういった別のネットワークとの繋がりについても今後考えてみてはどうか。

(事務局)

初回の参加者数が一番多かったのは、初めての研修会で、参加者の関心が非常に高かったことが考えられる。2回目以降は、リピーターの方が多くなってきている状況。

研修会の周知については、学校を經由し、地域の各団体の方へ周知しているが、情報がうまく届いていないケースもあることが分かったため、今後、周知の方法を改善していきたい。

別のネットワークとの繋がりについては、複合的な問題に対して、縦割りではなく、横断的に対応していく、「地域共生社会の推進」という取組を本市でも行っており、地域学校協働活動においても、こうした視点を持ちながら、他のネットワークと結び付けていければと考えている。

(委員)

コーディネーターの役割は、非常に大きいと感じた。

### (1) 審議事項

- イ 香川大学防犯パトロール隊による「防犯アプリ活用教室」について  
事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

防犯パトロール隊のベストを着た学生がターゲットとして狙われる可能性は無いのか、少し心配になる側面もある。この取組を初めて知る人に、そういった部分についても説明があ

ると、より安心して活動に関わる方が増えると思う。

(委員)

防犯アプリ活用教室の目的としては、防犯アプリを活用し、ホットスポットがたくさんあることから、防犯の意識を高めてもらうということなのか。

(事務局)

散歩に行きながら、買い物に行きながら、子どもたちが下校する時間帯に行く「ながら見守り」を、どこに大人の姿を見せれば、より効果的かということ、ホットスポットが登録されている防犯アプリを活用してもらうことを目的としている。

(委員)

「ながら見守り」も何となく行うのではなく、意識を持って行うことが大事だと感じた。

(事務局)

これまでも行われていた地域の見守り活動を、より効果的に行うための1つの手段として活用できるようにしていきたい。

(委員)

見守り活動について、広報誌には、掲載していないのか。

(事務局)

広報誌での周知は、今のところできていない。

(委員)

具体的な内容は難しいかもしれないが、活動をやっていることについての広報は、もっと行っていただきたい。

## (1) 審議事項

### ウ 本市の不登校の課題について

事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

不登校が、マイナスイメージで語られていて、もちろん全く問題ない行為ではない、何らかのサインがあるということは分かるが、一面だけが強調される気がしており、そのバランスが難しいと感じた。

子どもの居場所について、現場で支援されている方から、子どもの登校日数の読み替え等の手続きが煩雑で大変との声を聞いている。こういった手続き面の改善は、行政にしかできないことだと思う。

(委員)

自分の校区内でも、不登校についての話を聞くことがあるが、それぞれ色々なケースがある。そういったことについて、幅広く意見を交わしていくことも支援の一つになるのではないかと思う。

(委員)

義務教育は中学校で終わりだが、不登校支援は、そこで終わるものではないと思う。中学卒業後も、子どもが、地域社会など、どこかと繋がれるようにすることが今後の課題ではないかと思う。

(委員)

親の安心が子どもの安定に繋がるので、保護者が相談できる場が増えてほしいと思う。

子どもの居場所について、子どもの状況は様々なので、子ども食堂等の賑やかな場所だけではなく、児童館等の静かな場所など、子どもが選べる場所がたくさんあるといいと思う。

また、学校の先生とは違う部分でサポートできる地域支援チームのようなものがあればいいと思う。

～会議全体について～

(委員)

施策の内容も大事だが、一般の方々が、市の施策についての情報を知ることが大事だと思う。ホームページの充実など、より見てみたい・知りたいと思えるような広報を目指してもらいたい。

(委員)

何か力になりたいと思っているが、どうすればいいのか分からないという人もたくさんいるので、そういった方をぜひ活用してほしい。

(2) 「その他」について事務局及び委員に意見等がないか確認する。

【委員からの取組紹介】

・「スクールソーシャルワーカーだより」、「冬のわくわくフリーマーケット2026」について紹介

【事務局からの報告事項】

・「第48回中国・四国地区社会教育研究大会香川大会」について説明

その他意見等はなかったため、以上をもって、本日の会議を閉会することとした。